



雨に煙る大堀山（多賀町との境界に近い芹川の河原から）

広報 ひこね

2002

6/1



妻の愛さん(左)と自宅できつろぐ大堀さん

表紙では、「住みたい 住み続けたいまち」彦根の表情を写真で紹介しています。写真をお持ちでない場合は、**☎**0922-1411（内線431）へ気軽に連絡してください。

大堀 榮一さん（大堀町）
犬上の鳥籠の山なる不知哉川
不知とを聞かせわが名告らすな
万葉集にあるこの歌（詠み人知らず）に歌われている「鳥籠の山」と「不知哉川」は、現在の大堀山（鞍掛山）と芹川であるとの説が有力です。一帯は軍事上の要衝だったらしく、壬申の乱（672年）をはじめ何度モ戦いの舞台となりました。
大堀山はまた、第二次世界大戦のころにはマンガン鉱を産出していたこともあります。
そうした歴史を秘めたこの小さな山ですが、家庭用燃料にするためのたき木を捨てる習慣がなくなり、手入れをしなくなってきた。樹種が少なくなりました。荒れていく山を見るのは寂しいことです。郷土の誇りである貴重な歴史遺産を、後世に語り継いでいきたいものです。

表紙のことば